

## 特集1

# 明治学院大学 教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム

## 1. 総括

「明治学院大学 教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム」は、本学で活発におこなわれているボランティア実践と、大学での学びを融合する全学的な取り組みとして2016年度から始まった。

このプログラムは、①135時間以上のボランティア実践、②各学部と、共通科目を担当する教養教育センターが指定した科目のうち16単位の修得、③ボランティア実践と、大学での学びを結びつけるための手がかりをつくる「インテグレーション講座(3回)」を受講した学生に、サティフィケート(修了証)を授与するものである。このプログラムを立案するなかで、学生の自発性を重視する観点から、ボランティア活動自体の単位化はしなかった。一方で、すでに大学で提供されている教育とのつながりを強化することで、学生自身の専門的学びとボランティア実践の双方が深化することを期待している。同時に、このプログラムの意味を深めていくなかで、これまでボランティアセンターと直接的な関わりのなかった教員たちとも連携しながら、共生社会の担い手を育成する明治学院大学らしい新しい教育システムが生まれることを目指している。

初年度にあたる2016年度は100名を超える1年生が登録し、さまざまな現場で実践を始めるとともに、各学部・教養教育センターが設定した「指定科目」と、「インテグレーション講座」の受講をしている。ボランティアセンターは、第1回インテグレーション講座を企画・実施した。「Unlearning(学びほぐし)」を手がかりに、すでにボランティア活動を活発におこなうボランティアセンターの学生メンバーの話題提供も受けながら、大学での学びとボランティア実践からの学びの違いを理解し、お互いを深めていくためのヒントを手に入れることを目指した。それとともに、秋学期に学生から提出されたボランティア実践の記録をもとに、実践をより活発におこなっていくための支援をおこなった。

2016年度プログラムを実施するなかで、登録学生の中に、活発にボランティア活動をおこなっている人と、ほとんど実践していない人と二極化している実態が見えてきた。これについて議論をおこない、二極化の原因として、夏休み期間以前に、大学の外の現場を経験したか否かが関わってきているように推察されている。そのため、2017年度は新規登録学生に対して本学の1日社会貢献プログラム「1 Day for Others」への参加を強く呼びかけるとともに、夏休みに実施されるボランティア活動の紹介を活発に実施しようと考えている。

(ボランティアセンター長補佐 猪瀬浩平)

## 2. プログラム概要

本学の教育理念“Do for Others”を具現化し、ボランティア実践と大学での学びを深める「明治学院大学 教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム」が2016年度よりスタートした。

①所定のボランティア実践、②指定科目の単位修得、③実践と大学での学びを結びつけるインテグレーション講座の受講により、共生社会の担い手となる力の育成を目指す。プログラム修了者にはサティフィケート（修了証）を授与する。2016年度入学生から対象。



### 3. 2016年度スケジュール

日にち	内容
4月	新入生向け学科別ガイダンスにて「明治学院大学 教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム」について告知
6/2 (木)	第1回インテグレーション講座の告知・エントリー受付開始
①6/29 (水) ②7/9 (土) ③7/14 (木) ④8/2 (火) (予備日として設定、開催)	<p>第1回インテグレーション講座</p> <p>【テーマ】「ボランティア実践から学ぶとは」</p> <p>【内容】「大学での学び」と「ボランティア実践からの学び」の違いについて理解する。</p> <p>キーワードとして「Unlearning (学びほぐし)」を手がかりに考える。</p> <p>【講師】猪瀬浩平 (ボランティアセンター長補佐 教養教育センター 准教授)</p> <p>市川享子 (ボランティアコーディネーター)</p> <p>中原美香 (ボランティアコーディネーター)</p>
9/30 (金) ~10/11 (火)	「ボランティア実践」記録の提出期間 (春学期分)
①10/7 (金) ②10/18 (火) ③11/24 (木)	<p>ランチタイム・セッション</p> <p>(第1部：上級生のお話を聞く、第2部：グループワーク)</p> <p>【テーマ】</p> <p>① 秋にボランティア実践を活性化させよう ～1 Day for Others の活用について～</p> <p>② ボランティアプログラムのリーダーについて考えてみよう</p> <p>③ 活動を振り返る</p>
12/7 (水) ~12/19 (月)	<p>「ボランティア実践」記録の提出期間 (秋学期分)</p> <p>※コーディネーターによるフィードバック (対面) 実施</p>



第1回インテグレーション講座のようす

#### 4. 2016年度プログラム登録者数

学部	登録者数	学科	登録者数
文学部	8	英文	5
		フランス文	2
		芸術	1
経済学部	13	経済	6
		経営	4
		国際経営	3
社会学部	52	社会	12
		社会福祉	40
法学部	10	法律	4
		消費情報環境法	2
		政治	4
国際学部	28	国際	27
		国際キャリア	1
心理学部	8	心理	4
		教育発達	4
計119名			

#### 5. インテグレーション講座

インテグレーション講座は「大学での学び」と「ボランティア実践」をつなぐことを目的としている。今年度は本プログラム実施初年度のため、講座は第1回のみが開催された。第1回講座へ参加することで、本プログラムへ登録することができる。3年にわたり三つのテーマの講座を受講する。

##### 第1回インテグレーション講座

【テーマ】「ボランティア実践から学ぶとは」

【内容】「大学での学び」と「ボランティア実践からの学び」の違いについて理解する。

キーワードとして「Unlearning（学びほぐし）」を手がかりに考える。

【受講時期】2016年春学期

##### 第2回インテグレーション講座

【テーマ】「ボランティア実践と大学での学びを結びつける」

【内容】「ボランティア実践」と「大学での学び」を結びつけるとはどういうことか、大学の教職員

や先輩学生からのレクチャーやディスカッションを通して理解を深める。

【受講時期】 2017 年秋学期

### 第3回インテグレーション講座

【テーマ】 「ボランティア実践による学びと専門の学びを融合した：“私の Do for Others”」

【内 容】 本プログラムでおこなった自らの「ボランティア実践と学び」の軌跡と成果について、自らの専門と関連づけながらプレゼンテーションし、報告書を提出する。  
プログラムの最終ステージとして、“私の Do for Others”を発表する。

【受講時期】 2018 年秋学期

今年度は第1回講座を開催。多くの学生が受講できるように同一内容で複数回設定した。

2016 年 ①6/29 (水) ②7/9 (土) ③7/14 (木) ④8/2 (火)	【テーマ】 「ボランティア実践から学ぶとは」 【内 容】 「大学での学び」と「ボランティア実践からの学び」の違いについて理解する。キーワードとして「Unlearning (学びほぐし)」を手がかりに考える。 【講 師】 猪瀬浩平 (ボランティアセンター長補佐 教養教育センター准教授) 市川享子 (ボランティアコーディネーター) 中原美香 (ボランティアコーディネーター)
--	--

## 6. プログラム登録学生の声

本学はボランティアの環境が整っているなので、入学前から楽しみにしていました。より充実した活動のため、更に学びを深めたいと思い本プログラムに登録しました。1Day がきっかけで、NPO でのボランティアを続けています。初対面の人と協力していくことは難しい面もありますが、国際協力という同じ目的のある仲間と活動することは、コミュニケーション力の向上に大いに役立っていると感じています。これからも少しずつ自主性を発揮していきたいです。  
(文学部英文学科)

インテグレーション講座では初対面の学生同士、真剣に議論しました。先輩の体験談をお聞きし、世界観も広がりました。8月には熊本で廃棄物の分別ボランティアに取り組みました。炎天下での作業で熱中症になってしまい、過酷な環境下では特に協調性が重要だとよく分かりました。「ボランティア特別研究」の受講、ボランティアサークルでの活動の記録を定期的に提出することで、振り返り、課題を把握し、より主体的な活動を実施していきたいです。  
(社会学部社会福祉学科)

※白金通信 2017 年 4 月号に掲載

## 7. 学びに基づくボランティア実践プレゼンテーション大会

「明治学院大学 教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム」の関連企画として、3、4年生を対象に開催した。在学中に、学部・学科の授業における学びと自身がおこなったボランティア実践を意識して関連づけ、双方を深めた学生に発表の場を提供するとともに、優れたものに学長による賞を授与するものである。

一次審査（エントリーシート）を通過した学生を対象に、2016年12月10日（土）に、どのようにボランティア実践と、自身の大学での学びを有機的に連携させたかを発表する「学びに基づくボランティア実践プレゼンテーション大会」がおこなわれた。

厳正なる選考の結果、下記学生の入賞が決定した。

【テーマ】“Do for Others”の実現のために

「大学での学び」と「ボランティア実践」との連携

学長賞 1名

心理学部教育発達学科4年 土屋大輔

ボランティアセンター運営委員長賞 2名

文学部芸術学科3年 雨宮彩乃

国際学部国際学科4年 井上綾乃

ボランティアセンター長賞 1名

国際学部国際学科3年 菊池祥太郎

奨励賞

法学部政治学科3年 蓼原彩香

社会学部社会学科4年 丁飛

法学部政治学科3年 渡辺真帆

(氏名50音順)

※入賞者のエントリーシート（抜粋）を、保証人会報『SAN SUN（さん・サン）』2017年春号に掲載しています。